

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071601894		
法人名	有限会社 ハーティー		
事業所名	グループホーム らくらく		
所在地 (電話番号)	〒839-0804 久留米市宮ノ陣町若松2348-5 (電話) 0942-31-1388		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】(H21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12人, 非常勤 1人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <b>単独</b>		新築 / 改築	
建物構造	鉄骨		造り	
	2 階建ての		2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<b>有</b> (100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<b>有</b> ( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	赤司内科医院、亀尾医院、田山メディカルクリニック、毛利歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは西鉄甘木線古賀茶屋駅から徒歩で約10分、住宅街にありながらも田園風景が広がる静かな環境に立地している。また、内科・消化器科標榜の医院が隣接し、入居者が医療支援を受けやすい環境にもある。玄関前は案山子と束ねられた藁やコスモスの花で飾られ、来訪者を暖かく迎え入れてくれる雰囲気を出している。敷地内には研修センターも造られ、職員の研修ばかりでなく、今後地域住民にも開放される予定である。ホームの運営は認知症の症状を踏まえ、入居者のことを第一に考えた運営がなされ、常に職員が一丸となって入居者の立場に立ったケアの提供がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では改善項目が挙げられていないため、それに対する取り組み、改善状況については特記することはない。しかし、職員はさらにより良いサービスが提供できるよう日々模索している。次項の自己評価についても時間を割いて取り組んでおり、今後は自己評価にて改善課題が挙げられることを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム施設長より自己評価の研修が4時間に渡り行われ、その上で自己評価票を職員に配布・記載してもらい、話し合いのもと課題を共有し、施設長や管理者がとりまとめたものである。したがって、自己評価を記載するまでには、かなりの時間が割かれている。そして時間を割いた分、グループホームに求められていることが個々の職員は理解できたものと思われる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に開催されている。会議ではホームの運営状況や地域行事等についての報告や連絡が行われている。推進会議委員からは認知症の啓発活動への取り組みを求められることがあり、ホームが認知症啓発の拠点としてさらに地域に根づいていくことが期待される。運営推進会議議事録は久留米市の長寿介護課にも提出され、連携が深められている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居者の心身の状況(食事、排泄、睡眠、清潔、歩行状態、楽しみ)や暮らしぶりについては家族の面会時や1ヶ月に1回の便りの中で詳しく報告している。ホームへの意見等についてはポスターで掲示する等工夫しているが、家族からは相談が主であり、運営よりも入居者のケアに関することが多いようである。家族と話し合える機会として家族会が年1回開催されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の散歩や買い物の際に地域の方と挨拶を交わしたり、敬老会や地域の清掃活動、宮ノ陣町の御供納(ごくおさめ)など地域行事に積極的に参加したり、事業所主催のバーベキューに近隣の方を招くなどして地域住民との交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「明日は我が身、尊厳と感謝、思いやりの気持ちを大切に、地域の一員としての役割を果たします」と掲げられ、常に入居者の立場に立ち、入居者を尊敬し感謝の気持ちを持ってケアが実践できるように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は理念の内容を理解し、常にご本人の立場で入居者が望んでいることを把握するよう努めている。また、言葉掛けにおいても、丁寧な対応を心がけ、入居者の行動を支援できるよう職員が一丸となって日常のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の散歩や買い物の際に地域住民と挨拶を交わしたり、敬老会や地域の清掃活動、宮ノ陣町の御供納(ごくおさめ)など地域行事に積極的に参加している。また、事業所主催のバーベキューに近隣の方を招くなどして地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長及び管理者は自己評価の意義を理解し、施設長による自己評価の研修に4時間を割いている。その後、職員に自己評価票を記載してもらうなかでグループホームに求められている課題を共有し、日常のケアのあり方を向上させるべく努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催されている。会議ではホームの運営状況や地域行事等についての報告や連絡が行われている。推進会議委員からは認知症の啓発活動への取り組みを求める提案もあり、ホームが認知症啓発の拠点としてさらに地域に根づいていくことが期待される。会議議事録は久留米市の長寿介護課にも提出され、連携がより深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者のグループホームの利用について市と頻りに協議を重ね、その結果久留米市では初めて生活保護受給者の入居が実現された経緯がある。その他、運営推進会議のあり方等、必要に応じて市町村と協議を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	権利擁護については日々の業務、ミーティング等で話し合われ、既に成年後見制度を活用されている入居者がおられるため、職員の中では制度の理解が浸透している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の心身の状況(食事、排泄、睡眠、清潔、歩行状態、楽しみ)や暮らしぶりについては家族の面会時や1ヶ月に1回の便りの中で詳しく報告されている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等についてはポスターで掲示する等工夫しているが、家族からは意見・不満・苦情等は無く、相談が主である。家族と話し合える機会として家族会が年1回開催されている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はあるが、職員がユニットを行き来することで顔馴染みの関係が崩れることなく過ごせている。離職等については職員が管理者・施設長と相談できる体制を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり働く意欲があれば性別、年齢等の理由で排除されることはない。職員は法人内外にて研修を受けられる機会が数多くあり、資格取得も奨励され自己の能力を發揮することができるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は日々職員に対して、入居者の人権を尊重することの大切さを伝えている。そのことは理念にも表明され、職員も理解し、実践に活かせるよう取り組んでいる。また、その思いが面会時間や食事、入浴、活動などのグループホームの運営に反映されている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は職員の育成に積極的に取り組んでおり外部研修のみならず、法人内においても計画的に研修が実施されている。また、職員の資格取得に向けた支援体制も確保できている。ホーム敷地内に研修センターが増築され、今後も職員の資質向上に向けた研修実施の充実が期待できる。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは久留米地区グループホーム協会に所属し、協会主催の研修等にて他事業者と交流する機会を持ち、サービス向上に取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してホームを利用できるように、家族と相談の上、職員が家族の知人・友人という設定で入居者と接したり、事前に居室に本人が愛用されているものを運びこむ等、個々の入居者にあつた形で馴染みやすい環境を作り出すよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活や人生をより良く過ごす上でのヒントなど、人生の先輩として教えていただくことが多くある。時には入居者がスタッフの表情を察して気遣ってくれるなど喜怒哀楽を共にし、教わりあいながら過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者本人及び家族より個々の生活歴や趣味・嗜好などの情報収集を行うなどして、本人の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。意志の表出が困難な入居者については表情、行動より思いを汲み取るよう努めている。</p>		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者との日々の関わりの中で、一人ひとりの状態をつぶさに観察・アセスメントを行い、関係者と検討の上で介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは定期(3ヶ月に1度)或いは随時行われ、モニタリング票により目標が達成できたか否かを判断し、達成できていない場合は職員で検討し、理由を明確にした上で新たな介護計画を作成している。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院の受診に同行し診療援助を行ったり、入居者・家族の要望により自宅への外泊や外出などの支援を行うなど柔軟な対応をしている。</p>		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>緊急の場合は契約病院を利用しているが、本人及び家族の希望によるかかりつけ医での受診機会は確保され、適切な医療が受けられるよう支援されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りを行ってきた実績があり、入居時に重度化した場合や終末期について家族等に説明を行い同意を得ている。実際に重度化した場合は再度家族や関係者と話し合いを重ね、方針を共有していくことに努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイル等の記録は事務室にて第三者の目に触れないよう保管・管理されている。職員は日頃から、職員の言葉かけや対応が入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が日々の生活を主導するのではなく、個々の入居者の希望や生活のペースを尊重・重視し、その人らしく生活が送れるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は出来る限り入居者と一緒に食材の買い物から食事の準備・調理・片付けが行えるように努めている。また、入居者と食事を共にし、一人ひとりの摂食・嚥下状況の観察、食事介助をしながら家庭のように和やかに食事を楽しむ事が出来ている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は15時半から18時頃までと夕方前後に設定され、原則毎日の入浴が可能であり、入居者の希望に合わせて支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の趣味や能力を把握し、絵画、雑巾縫い、調理、掃除、ゴミ出しなど一人ひとりが楽しみや役割を持ち、張り合いのある日々が送れるよう努めている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に花の水やり、洗濯物干し、近隣の散歩や買い物をしたり図書館に出かけるなどしてホームに閉じこもらないよう支援されている。加えて桜や紫陽花、コスモスの花見などホーム行事として月に1回程の頻度で外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は玄関に鍵をかける事の弊害を十分理解しており、目配り・気配りにより日中は玄関に鍵をかけることがないよう配慮されている。夜間は安全確保のため施錠されている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルに基づいて、入居者とともに地域の方の協力、参加も得て消防訓練や救急車対応、避難訓練等、年に2回実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立で調理を行っているため栄養バランスやカロリーは概ね把握されている。また、食事摂取量や水分摂取量も記録され把握されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には案山子や束ねられた藁・コスモスの花が飾られ、暖かい雰囲気では来訪者を迎えている。また、ホーム内の居間には季節感のある飾りや入居者の作品が飾られる等、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある家具等は全て入居者の持込によるものであり、入居者個々に馴染みの家具や品物、新たに購入された物等を配置し居心地よく過ごせるよう配慮されている。		